

SDGs 国連が2030年までに解決を目指す持続可能な17の開発目標。本稿に書かれた目標は「パートナーシップで目標達成を」。

公益財団法人パブリック

リソース財団専務理事



岸本幸子さん

私たちパブリックリソース財団は、

「意志ある寄付で社会を変える」ことを使命とする寄付推進組織です。福島県で事業展開する実業家や企業のみなさまからのご寄付をもとに、二〇一四年に「ふくしま未来基金」を創設いたしました。

「三十年後も福島に子どもの声が届いてほしい」「福島が誰もが生き生きしているふるさとになってほしい」。寄付者のこうした思いを受けて、基金の目的を、三十年後を見据えて行動するNPO

や社会起業家を育て、応援することとしました。

これまでに二億五千二百五十八万円のご寄付をいただき、延べ六十二団体に助成してきました。またNPOに資金提供するだけでなく、NPO支援の専門人材を育てる「コンサルタント養成講座」、未来を志向した夢のあるプロジェクトを構想し、実現する人材を育てる「ふくしま志高塾」を開催してきました。

支援を受けるNPOは、風評被害を乗り越えて福島農業の振興を図る団体や高校生・大学生の団体に加え、再生可能エネルギーの普及、子どもの遊び場づくり、子育てママの孤立の解消、外国にルー

## 福島の30年後を創る

ツをもつ移住女性支援に取り組む団体など、多岐にわたります。

三十年後の福島が、誰もが生き生きしている地域になるといふことは夢で、今はまだフィクションです。フィクションを現実にしようとチャレンジするNPOは、志を高く持ちながらも、日々地道な一歩一歩を歩んでいます。

時に出口の見えない目標に挑むNPOを支えるのは、ボランティアや寄付者など多様な支援者の応援です。NPO、企業、行政、市民、さまざまな異なる才能や貢献が組み合わさることで目標に近づくことができます。ふくしま未来基金は多様なステークホルダー（利害関係者）のプラットフォームになりたいと考えています。



ふくしま未来基金の助成金授与式＝福島市で

※この連載は、NPO法人JKSKによる『結核プロジェクト』の協力を得ています。